

ときがわ町地域福祉計画推進委員会 会議録

会議の名称	令和5年度第1回ときがわ町地域福祉計画推進委員会（書面開催）
主な議題	○計画の進捗状況について ◇地域福祉計画 ◇地域福祉活動計画
開催日時	令和6年2月22日付け書面開催にて、各委員から意見聴取を実施。
会議録の公開（非公開・一部非公開）とその理由	公開
委員	岩田利二委員、村田陽子委員、神山由絵委員（新規）、渡邊幸治委員（新規）、正木秀雄委員、村田朝子委員、西澤夫美子委員、村田陽平委員、野口本和委員、松澤順委員（新規）、小池猛委員、岡野正一委員、小池裕子委員、谷野裕子委員
事務局	福祉課 山崎課長、蓮沼主幹 社会福祉協議会 畑事務局長、吉岡主事、関根主任

審議等内容又は概要

1【各委員からの意見（名簿順）】

①委員

「地域福祉計画」は町が策定し、「地域福祉活動計画」は社会福祉協議会が策定した計画であり、令和5年から第3期の事業期間に入りました。

今年度の実績状況の資料をいただき、ありがとうございました。

町民の生活スタイルは、新型コロナウイルス感染症に影響を受けました。私たちは、地域住民に寄り添い、住民目線に立った地道な日常活動を行うことが喫緊の課題であり、焦らず・着実に事業に取り組むことが肝要と考えます。

令和6年度（2年目）の事業執行に、大いに期待しております。

②委員

第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画に基づき目標にむけ、それぞれの活動が進められているようなので、このまま推進して頂ければ良いと思います。

③委員

ときがわ町の地域福祉計画はしっかり機能していると感じます。社協だよりも分かりやす

く、壁がなく参加でき、私は切手を切り取るボランティア、ジーバーイーツ、貯筋体操ボランティアに参加しました。サロン活動もあり、高齢者が人や社会と関わることでフレイル予防につながります。社会とつながり楽しく体を動かせる行事はぜひ継続いただきたいです。また、家から出ることを控えている方も多いと思います。ご事情があり出られない方や人と交流することが苦手な方へもうまくサポートできる手立てがあれば良いと感じます。

通学路の見守りボランティアができる方は多くいると助かります。

今回の件と話は違うかもしれませんが、生き生き活動センターにあるinbodyをもっと広めたいです。せっかく素晴らしいものがあるので、若い方にどんどん広めて、ご自身の体脂肪、筋肉量を知り、運動習慣を作るきっかけになればいいと思います。私はエアロビックダンスの指導をしているので、もし子育て世代向けの体操教室のような機会があれば、ボランティアで参加したいです。

④委員

地域福祉活動の報告されている内容からは、各種の事業を実施されている点は良いと思います。

但し開催された事業への参加者が少ないと感じます。参加依頼の方法とか、PRが対象者に届く工夫が必要ではないでしょうか。

高齢者むけ事業でも、健康寿命を促進する面からも老連加盟組織にも協力を呼び掛け、日常活動に各自がなるよう展開できればと望むところです。

⑤委員

新型コロナウイルスも5類になり、以前の活動が戻りつつほっとしています。地域福祉活動も活発化してきている様子がわかります。高齢化が急速に進んできているときがわ町、ボランティアの人だけに頼らず、地域でのお互いの助け合いが災害地の様子から必要なことが伝わってきています。

⑥委員

ときがわ町の福祉活動を見るにあたり、当然のことながら“高齢者中心”の福祉活動となっている。誰もが安心して生活できる環境を継続につくってゆくためには、①働く世代 ②子供世代への重心のシフトが必要ではないかを考える。

高齢者が支援される対象の存在ではなく、支援する側へとなり、支え手の大きな一つと考える視点をもってゆく。それは地域活動の主体をゆずることもその一つと考える。主役は子供、働く世代と考える。

積極的交代が地域の新陳代謝を生む。経済活動だけでなく、福祉活動にもそれは当てはまる。そして第2、第3のキャリア形成を行える環境も同意に替えてゆく。

基本目標1の「3」高齢者等の社会参加を重点と考える。

シルバー人材センターでの受注業務の見直し、専門性をもったシニア世代が現事業者のサポートへ回るような（研修業務などを行い）サイクルを生むことは、一つのポイントと考える。

安心安全の生活を維持するためには全世代の参加が必要であり、支援者、初支援者の関係、予算の配分、変化の速い社会への対応など福祉の範囲となる。

職員の皆さまの活動が重要不可欠の時代となります。今後とも宜しくお願いします。

⑦委員

- ・多岐にわたり活動が進んでいることが伺えます。コロナの不安が減少してきた現在、更に福祉活動を深めていってほしいと思います。
- ・各小中学校での交流体験学習が継続されていることは大変素晴らしと思います。
- ・多くの町民で活動を進めるようにしていくことが大切だと思います。多方面でのボランティア養成講座等を開催し、町民の力を活用していけるようにしたいです。
- ・福祉の大切さ、活動内容、活動報告等は広報等でも随時取り上げ、広く町民に伝えていってほしいと思います。

⑧委員

少しずつコロナも落ち着いてきたこともあり、活発になりつつある様に思います。

ボランティア活動の推進においては令和9年度目標数を（20）、5年度で23団体と予定を越えてきている。また、意外だったがごきげん体操の参加者が西平や大野、櫛平地区と言った山間部に多いと言うこと。皆さまの声掛けと努力の成果と思われます。

2. 福祉課、社会福祉協議会からのコメント

①新型コロナウイルス感染症が感染症法上の第5類に位置付けられた後も、私達の生活はコロナ前に完全に返ることができていません。徐々に様々な行事が再開されていますが、人と人との交流、関わりは簡素化することが定着しつつある部分もあります。このような状況下で、地域の方の見守りや訪問活動を地道に続けていただいている民生委員の存在はとても心強く、大変感謝しております。

また、近年の度重なる大規模災害に備え、要支援者が安心して迅速に避難できるための「個別支援計画」の作成が、国全体の喫緊の課題となっておりますが、この支援計画の作成にも、民生委員は重要な役割を担っていただいております。

少子高齢化、人口減少等が進む中で、住民一人一人が互いに協力し合って、安心して暮らしていける町となるよう、民生委員の皆さまのご協力をこれからもよろしくお願い申し上げます。

②令和5年度が第3期地域福祉計画・地域福祉活動計画の1年目になります。これからも計画に沿って、各活動の推進に努めてまいりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

③日頃より、ボランティア活動にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。福祉事業の推進は、委員の皆さまをはじめ、多くの皆さまのご支援により成り立っております。また、高齢者のふれあいサロンも、民生委員の皆さまの協力のもと、今年度から徐々に再開しております。家にこもりがちな高齢者の方達が地域の方達とふれあい、皆で楽しく体操したり、出し物を観たりすることで心も身体も明るく健康的になれる。参加者の方と一緒に町や社協、民生委員等のスタッフが見守り、サポートをしながらサロンを盛り上げていきたいと考えています。

通学路の見守りボランティアのなり手不足は深刻な状況です。福祉課においても民生委員会等で周知していきます。

インボディ測定については、母子保健事業やがん検診などで保健センターへ来所された方が、気軽に測定会へ参加できるよう、広報等でのPRを継続していきたいと考えております。

また、子育て世代向け等のボランティア活動にもご協力をいただけるとのご意見をいただきありがとうございます。

④各地区の地域福祉活動がかたちを変えて徐々に再開されつつあります。老人クラブ連合会の皆さまのご協力も得ながら、皆で交流できる機会を増やし、健康寿命を延ばし日々の生活が明るく楽しく過ごせるよう事業を推進してまいります。

⑤少子高齢化の進展により、自治体やボランティアの方達だけでは、大規模災害等が起こった時に早急な支援が難しい場合があります。このため地域での相互の助け合いが必要不可欠だと思います。人と人がつながりを持ち、共に助け合う地域福祉を推進するため、各種事業を推進してまいります。

⑥子どもは次世代を担っていく社会の宝です。しかし少子高齢化が急激な速度で進行しています。要因のひとつに女性の社会進出による子育てと仕事の両立の難しさがあげられます。このため子育てと仕事の両立支援は勿論、結婚、妊娠、出産などの支援を実施しております。

出会いの機会や場を提供する婚活支援や、不妊検査費用の助成、児童手当の拡充やこども医療費の助成、出産祝い金や出産・子育て応援給付金の支給や未熟児養育医療

の支給、幼児教育・保育の無償化、子育て応援きっぷの配付事業など様々な事業を展開しております。

核家族化が進展する中で、元気な高齢者も子育てを支える側になることが期待されており、高齢者の社会貢献活動は今後より一層重要性を増すことが予想されます。

また、シルバー人材センターでの受注業務について、経験と専門性をもったシニア世代が、他の会員にその技術を伝えて業務を受け継いでいけるシステムをつくっていく事は大変意義のあるものと思います。シルバー人材センターと情報共有してまいります。

こどもから高齢者まで、地域福祉は一方通行ではなく、どちらかが支援される側、支援する側ではなく、お互いに支え合い、助け合える安心して暮らしていける社会の実現に努めてまいります。

⑦新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられ、各種事業を再開することができています。今後も、福祉事業に取り組み、安心して暮らせるまちづくりを推進してまいります。

各小中学校での交流体験学習につきましては、障害をお持ちの方やボランティアの方の協力を得て、福祉教育の支援を行っております。児童、生徒が福祉活動に取り組みきっかけづくりとして継続してまいります。

今後も、福祉事業の推進に多くの皆さまのご理解、ご協力をいただけるよう取り組んでまいります。

⑧ごきげん体操は、高齢者を対象に外出の機会と健康づくりのため、運動指導士による体操教室を実施しております。この事業もボランティアの方の協力を得て、声掛けや運営支援をいただいております。

福祉事業の推進には、多くの皆さまの支援が必要となりますので、ボランティア活動に関する理解を深めてまいります。

※このたびは貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございました